



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年12月1日

12月号・第155号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



ユスリハ ユスリハ科ユスリハ属の常緑高木
学名 *Daphniphyllum macropodum*

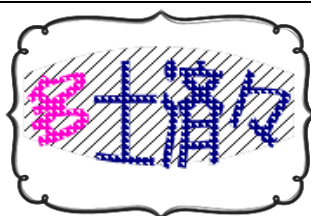


Contents



URL <http://www.naranature.com>

多士済々.....	①	癒しの散歩道 & ならやま茶論.....	⑫
Monthly Repo.ならやま.....	②	ならやまプロジェクトコンセプト(景観)・・	⑬
里山の今.....	③	④ 佐保台小ファーム.....	⑬
11月・月例研修会 & まごころプロジェクト・・	⑤	ならやまプロジェクト(12月).....	⑭
11月歴文研修 & 刈払機講習会.....	⑥	行事案内part1.....	⑮
やさしい病害虫講座⑧.....	⑦	行事案内part2 & 仲間入りしました.....	⑮
「鳥」シリーズ.....	⑧	行事案内part3 & 仲間入りしました.....	⑮
青垣春秋.....	⑨	行事案内part4 & 奈良学クイズ.....	⑮
Galleryならやま.....	⑩	幹事会報告.....	⑮
俳句百景.....	⑪	ペン画に寄せて・申し合わせ・編集後記・・	⑮



研かれた腕と味

池田 敬二郎さん

顧問 阿部 和生

“ならやま”秋の味覚「サンマ祭り」を今年も楽しみました。皆さまから「格別においしかった！」と言って頂く秘訣は、料理指導の池田敬二郎さんのお陰です。早朝中央市場に出かけ、その日の購入魚を目利きし、お値打ちな価格で求める。そうした陰の部分での「労」を惜しまない方です。その日の参加者数を推定し無駄を出さない。そして焼く前には……と、微妙な「旨味を引き出す」仕掛けをお手伝いしながら教えて頂いたものです。そうした下地があればこそ、1匹丸ごと食していただき楽しんでもらえる仕上がりなのです。

幼い頃からの「釣り師」で、お魚の知識は豊富、そこへ研究熱心が加わっています。手先の器用さを更に磨いて魚を捌かれるのです。この「ならやま」に参加されてからは、なおのこと皆さまの「美味しい！」という言葉が励みで、お料理を楽しんでおられるようです。現在〇〇歳、元気で日々を楽しむ事をモットーに周囲を和ませてくださいます。料理人にとって刃物は大切、それは日常の手入れ「砥ぎ」が必須と常々語られ、荒砥・中砥ぎ・仕上げとその



手入れにもひときわ入念です。「体力が無くなってきているから、皆さんと同じ様な作業はできないですよ。」と、おっしゃりな

がいろいろな刃物の手入れや「ちびって」しまったノコギリ鎌の目立てなど、裏方を精力的にこなして下さい。山作業で置き忘れられた“さび鎌”

などは、その腕にかかるると新品以上の輝きを放ち、切れ味鋭く仕上がっていて驚嘆したものです。ワイワイ・ガヤガヤと多くの人々が集う日常の人柄は、奥様と共に料理教室を繁栄させてこられた事が納得できます。体調を崩されて料理教室を縮小、水周りの器具をはじめとして様々な大切な品を「会」へ寄贈いただいています。

調理での「だし汁への拘り」は格別です、日本料理の神髄がそこにあると言いきられます。ならやま催事の時など、十分な手数を加えた逸品の差し入れで、皆さんが舌鼓を打たれたあの味を思い出される方も多いと思います。プロの味を無償で賞味させていただいているのですもの…。

若かりし頃から磯釣りの名手で、あちこちを釣り歩かれたそうです。「早朝に、あるいは前夜から釣りに出かける事は、年中と言う生活でした。」と思いを話されています。よほど上手に奥様の理解を得ておられたのであろうと推測します。その内助があればこそ、会員3万人にも



及ぶ全関西磯釣連盟の会長と言う難しい要職を6年間もこなされたのであろうと思います。ポンポンとやりとりされるお二人の会話から、本音、愛情に裏打ちされた長年の絆が伺えます。「阿部さん、私毎日体を鍛えているよ！ 透析なんてかなわんからな。」ときっぱりとおっしゃっています。そうです、その通り!!体調に気配りされて、健康寿命をさらに長く保たれるよう心から願うものです。

Monthly Repo. ならやま

10月23日(木) 晴れ 57名+22名

佐保台小学校5年生による稲刈り実習、頑張って全ての稲を刈り取ってくれました。スズメバチが自転車道横のクヌギの樹液に集まり危険性が高まった。幸いにも実被害はなし。

里山林のカシナガ被害木の伐採と薪づくり。レタス・ニンニク・ミズナの植え付け。草刈り隊員用の安全防具(顔、胸、膝用)が整備され、BC周辺の除草。東池でアオミドロが増え、掬いとり作業に汗をながした。活花用のオオムギを播種。



10月27日(月) 晴れ 12名

ソバの収穫時期が近づいたので、ソバクラブ員を中心にソバ乾燥用の竹組を設置。

10月30日(木) 晴れ 56名+4名

11月1日のまごころプロジェクト参加に向けて自然工作の材料準備。会報誌の配布。

里山林のカシナガ被害木の伐採と薪づくりを継続。ナス跡地の整備。第5地区でソバの収穫、かなりの収量があり、新ソバ祭にも提供できる見込み。湿地の除草とキショウブの植え付け、水生生物の定期調査ではエビが常連。

黒米の脱穀を蕎麦クラブ員の動員で無事完了。

11月6日(木) 64名

BC、彩の森のソバ刈りの一斉作業。大勢の力の結集はすごいものであった。第5地区では先週刈り取ったソバの脱穀。



第5地区の整備に着手、枯れマツの処分と除草。かなり時間がかかりそうであった。黒マルチフィルムを張ってエンドウ類の播種。首を長くして待っていたダイコンの収穫が始まる。ミョウガが新しい住処をもらう。

11月13日(木) 55名+4名

近畿大学の学生と共同でタナゴ池の泥さらえ。タナゴは大きくなり数も増えていた。

第5地区の枯れマツの伐採、自転車道沿いで倒壊の危険性の高い枯れたコナラの伐採。タマネギの移植とサツマイモの最後の収穫。先週刈り取ったソバの脱穀を実施したが、彩の森のソバは不作であった。センニチコウ花壇の処分。

11月20日(木) 晴れ 63名

コナラ伐採木の玉切り。第5地区の枯れマツの伐採ではイバラに悩まされる。漬物用ダイコンの収穫と寒天干し。長くお世話になったトウガラシ類とのお別れ作業。BC 玄関口の除草、ならやま池の泥の上にいるいろいろな生き物の足跡がくっきり。寒咲きハナナの植え付け。(木村 裕)



ならやま花だより

山中笠子

11月20日(木) 今年はどうぐりの生り年なのか、バリバリと踏んでしまうほど多い。

ならやまの草も種の状態です。冬越ししようと、其々のやり方で種をあちらこちらに運んでいます。

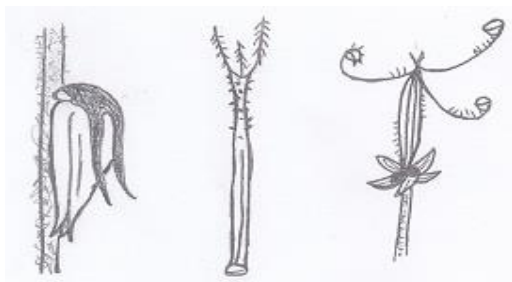
◆ひつつきむし型・・イノコヅチ(ヒナタもヒカゲも実の形はほぼ同じ)の実(1)をルーペで観ると、なんと!実にはへヤピンみたいな2本のトゲが付いている。そこに服や動物の毛を挟むという仕掛け。実は茎に下向きにつきへヤピンは外側向きに、ひつつきやすくした知能犯。

コセンダングサ(2)も、先端に2~4本のトゲ、そのトゲにも細かい逆さ刺があつて服や毛に付く。人が付いた実を取るのに難儀する訳に納得。

◆はじきとばし型・・ゲンノショウコ(3)はロケット形の実が乾燥してお神輿状にめくれ上がり、先の椀中の種を弾き飛ばす自力型。

◆ベニバナボロギクは瘦果に白い冠毛を一杯つけて風に乗ってふわふわと飛んでいく風まかせ。ジュズダマは水辺に生え水に流す型。

草たちの知恵は何か人生を表しているかのよう。



(1)

(2)

(3)

【草花】アメリカイヌホオズキ、トウゴマ、ベニバナボロギク、ツリガネニンジン、アオミズ、イヌタデ、ボントクタデ、カタバミ、チジミザサ、キツネノマゴ、フユノハナワラビ、ヒメジョオン、ツルリンドウ(花と実)

【草の実】チョウジタデ、ヤブラン、イノコヅチ、コセンダングサ、ゲンノショウコ、ジュズダマ

【木の花】シモツケ、ミツマタ(蕾)、チャノキ

【木の実】サルトリイバラ、フユイチゴ、ソヨゴ、紫式部、マンリョウ、ヤブコウジ、イヌツゲ、ナンテン、シロシキブ、ヒサカキ、タラノキ、コシアブラ

【花壇】ハナショウガ、ヒメツルソバ、源平小菊、ノコンギク、ハマオモト、シュウメイギク、菊、皇帝ダリア



ペタキン日記 31

羽尻 嵩

11月13日(木) 晴。北風が吹き、寒い日。

近畿大学北川先生の依頼を受けて始めたニッポンバラタナゴ育種は今年3年目を迎える。

この日、近大班とタナゴ池で調査を行った。



◆3年間の育種結果()内はその年放流した数。

<2012 年度タナゴ池育種結果> ニッポンバラタナゴ 255 (10)。タガイ 14 (15)。シマヒレヨシノボリ 1 (8)。

<2013年度タナゴ池育種結果> 5月9日タナゴ池にカワセミ侵入。ニッポンバラタナゴ 107 (約200)…但し、7匹を残して死滅。タガイ 11 (15)。シマヒレヨシノボリ 3 (25) …5月に24匹追加放流。

<2014 年度タナゴ池育種結果> ニッポンバラタナゴ 228 匹 (43 [7+36])。タガイ 11 個 (11)。シマヒレヨシノボリ 29 匹 (15)

今回は池の底ざらいまでしなかったもので、タナゴとヨシノボリはカウントした数より若干多いはず。



写真の横たわるのがバラタナゴで体長6cmぐらいのものもいた、黒っぽいのがヨシノボリ。

今年はバラタナゴの育種はもちろん、初めてシマヒレヨシノボリの育種に成功し、予想以上の成果だった。池に砂を入れたのが良かったのか。

テングチョウとヒグラシ

菊川年明

◆テングチョウ

今年はならやまでテングチョウ（下の写真）が大発生した。テングチョウという名前は頭部の先が突き出ているので、これを天狗の鼻に見たてたものである。成虫で越冬し、早春から現れる。当年生まれの成虫（新世代）が現れるのは初夏の頃で、幼虫はエノキの葉を食べて育つ。

今年の初夏のテングチョウは、はっきり気づく大発生であった。このチョウは地面によく止まる性質があるので、地上にいる数十匹の群れをよく目にした。このチョウは盛夏には夏眠（休眠）をし、秋には活動を再開して成虫で越冬する。

テングチョウの大発生についてインターネット上で調べてみると、京都、兵庫、大阪、和歌山、香川、広島などの各府県でも大発生が報じられているが、大発生はもっと広範囲に及んでいるかもしれない。和歌山では高速道路でたくさんのテングチョウが自動車のフロントガラスに衝突してドライバーを困らせたということもあったという。

◆ヒグラシ

朝夕や、曇天時に「カナカナ」と鳴くセミである。鳴き声は「ケケケケ」と聞こえると言う人もいる。薄暗い山中では昼間でも鳴く。だが今年はこのセミの声はほとんど聞かれなかった。いつもの年なら、山中を歩くと、近くの低いところからよく「ギー」という声を出して飛び立つのであるが、今年はそのようなこともほとんどなかった。

ヒグラシは地中での幼虫期間が数年に及ぶ昆虫であるから、何年か前の親の世代も数が極めて少なかったのか？と思ったりもしている。



パトロール班 Repo

小島武雄

平城山パトロールで山へ入るのは、今度の病氣療養の為、冬からもう9ヶ月ぶりになります。

弱った足腰と心臓の様子を見ながら、①コースを逆周りに儀助口（謎の人物儀助翁の石柱が立っています）から急坂を登ると、すぐに息切れがしてしまいました。

私達パトロール班は何度も登り慣れており、またイベント時の元気一杯の子供達はちっとも気にしていませんでした。が、少し体力に自信の無い方へのコース案内は、再考しなければならないと身にしみました。

この時期の観察路は、厚い落ち葉の絨毯をサクサク踏んで歩くと、葉の落ちた木々の間から澄んだ青空が見え、キラキラした陽射しのシャワーを浴びて、野鳥のさえずり、森の精気を思いっきり吸い、とっても素敵な気分になります。

汗ばむ事も無く散策には最高の季節になりました。是非皆さん、秋色の観察にパトロール班と一緒に登ってきて下さい。

写真にある、ならやま散策路の案内丸太 NO. 16は、遊びの森とつつじの道への表示と共に、大変判りやすくなっています。

焦げ茶色に白文字も美しく、打込んで戴きました守口さん有り難うございます。

このように道案内板の整備や更新も、パトロール班の重要な役割です。



自然教室チームだより

11月・月例研修会

甘樫丘自然観察会 実施報告

11月18日(火)、国営飛鳥歴史公園4地区の1つ甘樫丘地区にて自然観察会を実施致しました。

当日は生憎の空模様にも拘わらず自然を愛する善男善女13名が集い「秋の木の実を見つけよう」をテーマに木本中心に植物観察を行いました。



配布資料の「甘樫丘で見られる秋の木の実のリスト」を参考に、ドングリをはじめ、赤い実、黒い実、甘い実、酸っぱ

【集合写真・甘樫丘にて】 い実と皆さん好みの切り口で秋の自然を観察され堪能されました。

終わって見ればカクレミノ、サネカズラ、シャシャンボ、ナナミノキ、ピラカンサ、ナンテン、ユズリハ、ガマズミ、ホルトノキ、マユミ他この時期ならではの実を53種数える事が出来ました。



【サネカズラ】

【ピラカンサ】

恒例のインプリ(自然解説)ではクロガネモチとモチノキの違い、紅葉・黄葉・落葉のメカニズム、ホルトノキとヤマモモの違い等が披露されました。

甘樫丘縦走後は亀石・鬼の雪隠の巨石遺跡を廻り歴史公園館に予定通り到着解散と成りましたが、その道中にもこれまで余り目にしなかったアキカラマツや希少種のハウチャクソウ、筒状花の他に白い花弁状の舌状花を持ったコシロノセンダングサや黒点模様のクローバーとも遭遇、予想外の発見が有りました。

次回は是非皆様も御参加頂き、今度は御自身の目で何か新しい物を発見して頂ければと思います。

(辻本 信一)

まごころプロジェクトへの協力 第2弾

東日本大震災後の気仙沼市のボランティア団体と鹿折小学校への支援を続けておられる「まごころプロジェクト」さんに協力しました。

11月1日午後、午前中に芋ほりを終った子供を対象に自然環境クイズと自然工作を実施しました。天候が悪かったせいもあり、子供の参加は26名、スタッフ等が20名前後でした。当会からは9名のスタッフが参加しました。

前半は、サツマイモの芋の中身の色は？ 花は咲くのか？ どの植物と同じ仲間か？ 等々のクイズを行い、そのあと自然工作の題材を意識してドングリの種類は？ 芽と根はどこから出るのか？ 等のクイズを班対抗戦で行い、大人も子供もわいわいがやがやと賑やかに楽しんでもらいました。

イモを齧った犯人のコガネムシ(幼虫)を見せたところ、最初はギャーと悲鳴をあげた子もしいに触られるようになり、持って帰りたいという子も現れました。



後半は、ドングリの殻斗と輪切りした板を使ったクマのペンダント作りに挑戦してもらいました。みんな夢中になって製作に励んだ結果、材料は同じであったにも関わらず、目、耳、鼻の位置が作る人によって微妙な違いがあり、バラエティに富んだ表情豊かなクマが勢ぞろいしました。

当会からは鹿折小学校へのプレゼントとして鹿の折り紙を240匹提供し、収穫したサツマイモと一緒に送ってもらうよう依頼しました。なお、当日参加された子供達にも1匹ずつあげました。

(木村 裕)

歴史研修会

額田王の生涯を訪ね
忍阪・多武峰街道を巡る

11月11日(火)、24名がマイクロバスで忍阪を目指す。途中、桜井駅南広場でトイレ休憩と1名乗車の後、25名が忍阪の駐車場に到着。

「忍阪街道祭り」の余韻と地域の人たちの暖かい触れ合いを感じながら、生根神社、玉津島明神、舒明天皇押坂内陵、鏡女王墓、神籠石、石位寺を訪ねた。(大伴皇女の墓は時間の関係で省略)

坂東、杉本、藤田各氏の案内と岩本先生の解説により、記紀や万葉集が伝える「忍阪」をめぐる歴史と伝承が熱く語られた。

石位寺の石造浮彫「伝 薬師三尊石仏」は、地元の森本さんのご厚意で、予約なしで急遽拝観出来ることとなった。白鳳時代の石仏はかすかに色彩を残し、当時のままの姿で私たちを迎えてくれた。額田王の念持仏だったという言い伝えがある。石位寺境内から眺める忍阪の風景は、私たちにはほっとした安らぎと安堵感を与えてくれる。

この後、マイクロバスで栗原寺跡に向かう。徒歩で急な坂を上り詰めて栗原寺跡に到着、三重塔の礎石を囲んで、岩本先生から栗原寺三重塔伏鉢(国宝)に刻まれた銘文の読み下しと解説を聞く。

「比賣朝臣額田」と激動の時代を生き抜いた飛鳥時代の万葉歌人「額田王」の生涯を重ねながら、忍阪の歴史を振り返った。

倉橋溜池ふれあい公園で昼食後、談山神社を拝観した。紅葉には今少しという感じであったが、好天に恵まれ、談(かたら)い山まで5名の健脚組が登るなど、充実した1日であった。

(藤田 秀憲)

刈り払い機講習会

今回で2回目となる刈り払い機講習会。今年は当会がお世話になっているJAならけんー奈良市柏木営農経済センター・田中農業機械課長さんを講師としてお願いし、11名の参加者ながら2時間あまりの充実した講習になりました。

今回では機械の基本的な構造やメンテナンスに焦点を絞り、その上で適正な部品や消耗品等を選ぶ必要性が強調されました。特に燃料やプラグ、その他エンジンは勿論のこと、マフラーやシャフト、チョーク、クラッチ等の構造や正しい操作の方法まで、あるときは実物で、またある時は経験談を交えながら懇切・丁寧に説明をして頂きました。その上で正しい刈刃や燃料等の使用方法・選び方等についても的確に教えて頂きました。



最後には機械を使う際には

- ① 周りの状況を常に把握する。また移動する際にはエンジンを止める。
- ② 使用後は燃料を抜く。またグリスの注入も忘れずに。(特に回転音に気をつける。)
- ③ ギヤケース周辺のメンテナンスに気を配る、こと等も強調されました。

次回は実習中心の講習もいいなあ、との声も聞かれました。

(八木 順一)

やさしい病害虫講座 8

微生物で害虫防除

木村 裕

農薬と言えば人や動物になんらかの悪影響があるように思われていますが、まったく毒性のない農薬もあります。テントウムシなどの生物農薬は、分類上農薬に含められていますが、一般の農薬とはかなり異なったもので、無農薬栽培でも利用が認められている農薬です。

安全な農薬の代表選手の一翼をになうのが、微生物の助けを借りた農薬です。微生物というと、炭疽病菌、インフルエンザウイルス、エボラ出血熱ウイルスなど、危険なものを浮かべがちですが、逆にペニシリンなどの抗生物質など有益な物も少なくありません。

害虫防除に利用されているのは、カイコに致命的な死亡をもたらすバチルス菌です。この菌に感染したカイコは数日中に死亡するので、カイコを飼う人々からは非常に恐れられています。この菌はカイコその他、いろいろなチョウやガの幼虫にも寄生しますが、人間や動物にはまったく無害で何の悪影響もありません。



効果が大きい害虫

この菌を培養して作り上げたものが、一般的に BT 剤と呼ばれているもので、菌そのものを殺して毒素のみを利用するようにしていますので、農作物に付着しても安全ですし、周囲の環境に対する悪影響もありません。また散布された菌が再度繁殖してそこら中に広がることもありません。

BT 剤に触れたアオムシやケムシは、すぐには死亡しません。早くても 1 日、通常 3 日程度はかかりますので、その間に葉っぱをごっそり食べられてしまうのでは？ そのような心配はまったくありません。薬剤に触れたアオムシは食

欲をなくすのか？食べるのを止めてしまい、餓死したような感じで死亡に至ります。

この菌はカイコから取り出したものですので、アオムシ、毛虫、ヨトウムシなどチョウ・ガのグループの幼虫にのみにしか効果がありません。それゆえアブラムシやテントウムシダマシなどにはまったく効果がなく、彼らにはせいぜい今日は通り雨がいったのかとおもわせる程度です。一方カイコには影響力が大きいので、養蚕が行われている地域での使用は禁止されています。また天敵の寄生蜂やテントウムシ類、ミツバチなどに対してもまったく効果がありません。



効果がまったくない害虫

製造メーカーによって商品名が異なりますが、効力には大きな差はありません。関西地方の園芸店には以前はトアロー水和剤 CT が置かれていましたが、最近はゼンタリ顆粒水和剤が多いようです。

現在販売されている主な BT 剤

ダイポール水和剤、 トアロー水和剤 CT
バシレックス水和剤、ボタニガード ES
エスマルク DF、 トアローフロアブル CT
フローパック DF、 ゼンタリ顆粒水和剤
ガードジェット水和剤

近年、幹に潜る甲虫のカミキリムシに対するバイオリサ・カミキリという微生物を利用した農薬も販売されるようになりました。ただし、この農薬はアオムシやケムシに対してはまったく効果がありません。

鳥シリーズ

12月 ヒヨドリ



小田 久美子

近年は何時どこでも当たり前に見られ、うるさく鳴く声や厚かまし感があって、あまり皆さんに関心を払われない鳥ですが、少し前迄は列島の多くで秋になると山から里に降りてくる冬鳥でした。

人々は、その頃咲く花を「ヒヨドリバナ」・「ヒヨドリジョウゴ」と名付けて秋が来たことを実感したものでした。



ヒヨドリがセンダンの実を、、、

主な食べ物は、花や蜜・昆虫・果実などで、夏にはセミを追いかけて回しているのを見かけたりします。

私たちのならやまも含め関西では、10月頃に急に個体数が増え、「ピーヨ ピーヨ」とワイワイガヤガヤ、お世辞にも良い声とは言えない鳴き声が響きます。その頃、ウメモドキやムラサキシキブなどの実が美味しそうに色付き始めご馳走が勢揃い、柿は勿論大好物です。

冬、実を食べ尽くすと、キャベツやコマツナなどを食べ尽くすので、害鳥として駆除の対象になっている地域もあるようです。

サザンカや茶の花だけではお腹が満たされない彼らは、しばしば地上に降りて、芝生や雑草や草花をついばみます。

もう随分前、「我が家のパンジーを食べる赤い鳥は何?」と質問されました。

赤い鳥? マシコの仲間?? そんな筈は…と即答出来なくて困りましたが、そのあと直ぐ近所のパンジーを食べるヒヨドリを見て納得しました。

ホップが赤褐色なので、その友人には瞬間赤い鳥に見えたのでしょうか。

花の蜜は大好きで、冬サザンカや茶の花・早春は椿や桜の花に顔を突っ込んで真黄っ黄の顔を見るとちょっと笑えます。

2年前の秋お医者通いすることがあり、1ヶ所程のその行き帰りの道すがら、何ヶ所かで一つのグループが100羽を超す4つのグループに出会いました。渡りの途中でしょうか、お庭のクロガネモチやピラカンサ、街路樹のハナミズキに鈴なりのヒヨドリは壮観でした。



ヒヨドリの渡り (山縣)

日本では種子の運び屋として最も影響力がある鳥で、野生植物の繁殖に不可欠な存在である一方で、生態系にとって好ましくない外来植物を増やしてしまう働きをすることもある諸刃の剣となる存在でもあります。

【注意】18日、ヒドリガモの死骸から鳥インフルエンザA型が検出されたと報じていました。ならやまで耕作されている皆さん、不用意に鳥の死骸に触らないで下さい。



出雲の神々と大和

歴史文化クラブ
古川 祐司

以前、青垣春秋に「三輪山と大物主神」と題して拙文を載せたが、三輪山や大和の各地に出雲の神々の足跡が色濃く残っていることの不思議さに惹かれた。最近読んだ本の中から、その答えのいくつかを拾い出してみたい。

まずは、村井康彦氏（国際日本文化センター名誉教授）「**出雲と大和**」（岩波新書）である。

弥生時代の後期、出雲地方は先進稲作が発達し、北九州地方との交易や斐伊川中流の鉄を背景に、出雲から富山にいたる日本海文化圏を形成していた。磐座信仰と製鉄技術の特徴とする出雲族は、大和王権が成立する前に大和に進出していた。出雲族が三輪山に祀った大国主命は大物主神と呼ばれた。奈良盆地には出雲系諸氏族連合があり、それが邪馬台国連合である。

因みに、物部氏の始祖「饒速日命」も、宮津市の籠（こも）神社に伝わる国宝「勘注系図」によれば彦火明命の異名とされ、これは大国主命の娘婿。葛城の鴨氏、大神氏など奈良盆地の有力氏族はいずれも出雲系という。

神武東征軍に対し、出雲族連合は饒速日命を奉じ長髓彦を大将にして孔舎衛坂（石切神社辺り）で戦い撃退する。熊野を迂回して攻上がる神武軍は奈良盆地の南で決戦を行うが決着がつかず、最後に饒速日命が長髓彦を殺して降伏。神武天皇は即位し、大物主神の娘の「ヒメタタリスケヨリヒメ」を正妃に迎える。

以上、まことに自由な発想で、縦横無尽の展開がすこぶる魅力的である。

和田萃氏（京都教育大学名誉教授）は「**三輪山の神々**」（学生社）に次のように説明される。

三輪の神は、山をご神体とするもっとも古い

信仰の形態で、三輪山は天皇自らが祀る神の山であった。後に大物主神という人格神となるが、「倭なす大物主」といわれる倭の「国造りの神」であった。崇神天皇の時、疫病が大流行して天皇の祀りでは終息せず、神意により大物主神の子の「オオタタネコ」に祀らせる。それ以降、大物主神は「崇りの神」とされる。

出雲の大国主命（大己貴神）も芦原中つ国の「国造りの神」であり「崇りの神」でもある。古事記に垂仁天皇の皇子「ホムツワケ」は、大国主命の祟りで生まれつきものが言えず、出雲杵築の大神に詣でて、口が利けるようになる。

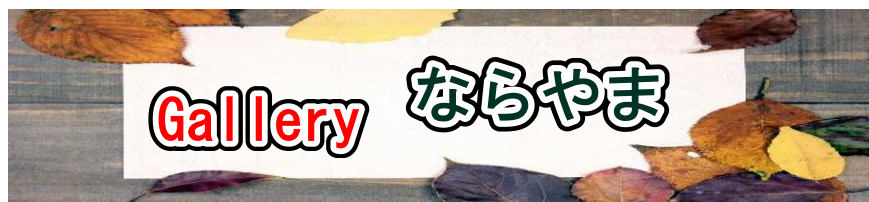
歴史の上では、杵築大社のある出雲西部は、「出雲振根」の伝承があるように、大和王権に対立した。6世紀中頃に服属するが、大国主命の信仰は播磨から畿内へ伝わりブームとなる。ピークに達したのが7世紀の後半である。

斉明帝は孫の「物言わぬ建皇子」のために、ホムツワケの故事に倣い、吉野の妹山に大名持神社を祀り、また出雲国造に命じて神社の修復をする。かくて「国造りの神」「崇りの神」と同様な神格を有する大国主命が大物主神と混同され同一神とされる。これは7世紀後半から8世紀にかけてのことであろう。

奈良時代には、出雲国造出雲臣果安は霊龜2年（716年）「神賀詞」を奏上するが、その中で「大己貴神の和魂を八咫鏡に付けて大物主神として祀る」と主張しているのである。

以上、まことに明快な説明である。

思うに、神話と歴史が緋い交ざっている古代、中でも「神話の国出雲と古代ヤマト」は歴史ロマンに満ちている。これらが私を虜にして放さない。



墨彩画 (羽尻 嵩) 「溪谷秋色」

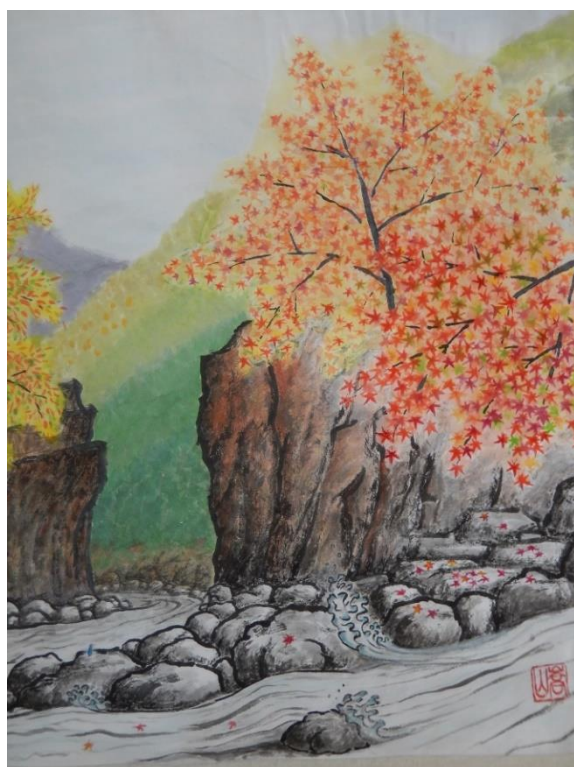
水彩画 (永井幸次) 「剣道」

オイルパステル6号 (有元康人)

「柏葉アジサイ」

陶芸 (小島武雄) 「枕かかえ猫」

白土 絵具 呉須 土灰釉



▲ 溪谷秋色



▲ 剣道



▲ 柏葉アジサイ



▲ 枕かかえ猫

古の談ひの山秋澄みて

かたら

青木幸子

初投句。日頃から興味をお持ちでしたが、素養十分の一句です。
歴・文十一月例会。談山神社の裏山の一景、素直さが良い。佳句。

茅葺きのふるさと偲ぶ暮の秋

青木幸子

一泊研修の旅。かやぶきの里を巡る。連なる家並に故郷を思う。
作者は播磨 宍粟（しろう）郡の出身。望郷の一句。

「暮の秋」は晩秋。「秋の暮」は一日の夕暮れの意。

傷骨隠士そろりそろりと庭は秋

古川祐司

左足骨折のアクシデント。わが身を傷骨隠士とおっしゃる。面白い。
爽涼の秋、不自由な足のもどかしさ。療養第一、我慢ですぞ。

蕎麦の花見ぬまに刈られ自得かな

古川祐司

蕎麦に思い入れの深い作者。休場中は土俵の事は忘れて下さい。
明日がある。明日があるさ・・・

珍客の小雀を愛でるガラス越し

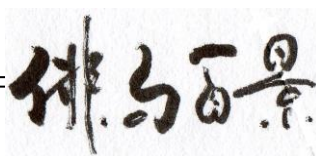
西谷範子

蝶ネクタイを着けたコガラの到来は珍しい。息を吞んで見守る。
自宅で忙中の閑。人生は間が大事ですヨ。癒しのひととき。

落葉敷く板の木黙す小宇宙

羽尻 嵩

芦生の森。幽谷の大樹に魅せられる。正に大自然の小宇宙。
こんな空間に来ると人間なんて小さいですナ。
小宇宙がお手柄。



監修 川井秀夫

忍坂の石の薬師に秋惜しむ

おっさか

八木順一

歴・文十一月例会。薬師三尊の石板の彫像に感動。無駄な
語彙が無く秀逸。土砂崩れで発見された古代の仏像。村の
保存会が国宝並みに管理する。

紅葉葉に童寝転ぶ褥かな

八木順一

紅葉狩の一景でしょうか。紅葉の寝床とは羨ましい。
褥の表記がお手柄。私も少年期に戻り、一度は感触を味わい
たいものだ。

業平の辿りし道や薄紅葉

鈴木末一

平群の業平みちに北風が吹く。通い路は恋の一念。寒さなんて・・・
紅葉の見頃は程遠し。酒飲み野郎はお顔が真っ赤つか

兜焼き手のでる箸でる紅葉宴

鈴木末一

エコファーム グルメ懇親会。女性陣の食欲にびっくり。
喰らうも飲むも無礼講。マグロの祟りが無いように。祈るや切。

白秋の芦生の快樂瀬の清ら

川井秀夫

一泊研修会。夜半の雨も奇跡的に晴れ上がる。深山幽谷の快。
ブラボー、ブラボー。

冬に入るマグロの室の大目玉

川井秀夫

前記のお寿司屋さん。マグロの頭部の異様さに驚き。
目玉が何かを訴えている様。
海の幸に感謝、感謝。外は秋から冬へ、寒風に吹かれ家路を急ぐ。

癒しの散歩道

去りゆく秋のノスタルジア



谷川 萬太郎

微笑み交わしたあの日を覚えていますか 秋風に揺れる可憐な野菊の花たちよ
人恋しさに焦がれていた山里はいつも 君に出逢う嬉しさと喜びに溢れていた
あの日楽しく語り歩いた同じ道をいつか もう一度踏みしめて感じたいから
長い冬が明け華やぐ花の季節が訪れる頃 故郷の景色に和める優しさ知るだろう

ざわめく秋風の囁き止みて鐘は鳴る 追われし季節はいつか去りゆく定めなりと
今こその胸に刻む追憶の日々を辿れば ただ悪戯に時を重ね移り行く姿振り返る
散り染めし紅葉の錦静かに降り注ぐ姿に 旅人の心は何故かわびしき思いに悩む
沈みゆく夕日の山影に思い抱く懐かしさ 故郷の空を仰ぎ見ては流離にむせび泣く

ならやま茶論

「恥らいと恐れ」

竹本 雅昭

若杉： いやですよ皮をはがさないで、寒い上に
恥しいじゃありませんか。

翁： いやあ、こりゃ～すまんかった。でもあ
んたらに働いてもらうしかないんでな。

若杉： お宅らは孫さんのいる年令だし、もう
恥らいの気持ちなんてなくなったのか
な。

翁： そんなことあるもんかね、きれいな看護
婦さんの前で「肌着を脱いで」といわ
れりゃ“ポーッ”となってモジモジさ。

若杉： ところで何をしろというんです。

翁： 我々のベースキャンプの大テントの骨
組みを丈夫なのにやり直してる所でさ。

若杉： はあ・・・大体読めたわ、天井の垂木
の役目ね。だったら他にも樹が沢山ある
じゃないの。

翁： 確かに有るには有るが、頭領がさ太さ

と言ひ、真直ぐだしその上白くて最高と
ね。

若杉： まあ！ えらく惚れられたもんね。

翁： ずっとここに居てもよ、いずれ葛にお
おわれてゲゲゲのQだ。いつもの見回
りに長谷川平蔵が通る・・・と言うその時
Qは前のめりに崩れ落ち～る。そこへ
一人の女「どうなすって」・・・
「葛いらんか」。

若杉： 何？それ。

翁： なにね、漫談のアレンジさ。とにかく
頼むよ。

若杉： 仕方ないわね、そこまで説得されては。



ならやまプロジェクトコンセプト

景観グループ

羽尻嵩

景観グループのコンセプトについて述べる前に会全体のことについて意見を述べます。

「ならやま」の里山整備活動は2007年から始まり、最初の数年間は、荒れ地を整備して市民・住民が憩える里山を作るというはっきりした目標があって、みんなで苦勞を分かち合い、みんなで楽しみ、考えたりする機会が多かったと思います。

しかし、その後里山の整備が進み、活動の参加者も増えて組織が大きくなり、現在は役割分担が3つのグループに固定化してきて、活動当初に見られたみんなで「ならやま」全体に関わっていく機会が大幅に減ってきていると思います。このことは会全体の課題ですが、景観グループの活動にも関わることなのでここで触れさせていただきました。

さて、景観グループのことに話を戻します。景観グループの作業は、周辺のゴミ拾い、ベースキャンプ全体の草刈りや竹林の整備、彩の森・第5地区・佐保自然の森の草刈り、景観花の育成、BCの流水・池・湿地の整備、里山道のパトロールなど他のグループよりも多岐に渡っています。

このように景観グループの作業分野が特に多岐に渡っているのは、里山整備と農園活動以外の作業を便宜上景観グループにまとめたという面もあり、したがって、全体がまとまって作業することはほとんどないというのが現状です。

里山整備の活動は、街中の公園造りやましては個人の家の庭造りの樹木・花・水辺作りとは違って、どのような里山がこの地域にふさわしいのかを、この地域の気候・植生・生態系・風土をグループ全体として探りながら進めていかなければならないと思います。

しかし、組織は分業が進めば進むほど、この点について全員で確認することが少なくなっていくと思います。そして、この会の里山整備の活動もそのようになってきているのではないのでしょうか。

今、景観グループだけではなく、会全体として、この点について考えてみる時期に来ているのではないのでしょうか。

童らの鎌音昂し田の稔り

佐保台ファーム体験学習

里山の水田を復元して早くも6年目を迎えた。佐保台小学校5年1組の児童たちが取り組む総合学習体験も同じく6年目になる。南側半分は佐保台ファーム、北側の半分は会員用である。

6月6日に田植え、7月・9月に生育観察などを体験。10月23日に稲刈りに取り組んだ。鋤鎌の使い方や稲株の持ち方等の諸注意を聞き刈り進む。初めは覚束ない手つきであったが、次第に慣れて会員用の稲も全部刈り終え、稲掛け作業も完了させてくれた。

子どもたちの感想文には、異口同音に米作りに携わる農家の人達のご苦勞の程などが綴られていた。一連の水稲栽培学習は、まさしく「百見は一体験に如かず」であったに違いない。

後日、「毎日三度の食事の繰り返しをしていますが、お母さんの愛情のこもった食事に好き嫌いを言ったり、給食を食べ残したりなどしていませんか。お母さんは、可愛い我が子の健やかな成長を願って、また、給食は管理栄養士の方が、バランスやカロリーなどを考えつつメニューを、さらに給食のおばさんたちも衛生管理に心配りをしながら、それぞれのパートで努力をして貰っています。そのようなことを考えますと、好き嫌いを言ったり、食べ残したりなどのわがままは許されないと思います。どうか、多くの人達に感謝の気持ちを忘れないで、学習にスポーツに文化活動に励んでください。」とのメッセージを届けた。

来年も「ならやま」に佐保台っ子の元気な声が響き渡ることでしょう。（鈴木末一）



ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日

12月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)
1月	8 (木) 29 (木)	15 (木)	22 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① J R 平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き (平日)
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R 奈良駅西口行き (平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。

*3月まで豚汁あり、お椀を忘れずにお持ちください。

- ◆ 連絡先：木村 裕

12月4日

<里山 Gr>

「ならやま里山林」の整備と資源活用
コナラ伐採（ガシガ被害木R2を中心に）
薪材（40cm）の玉切り、薪割り

<工房 Gr>

玉葱追肥 水田耕耘 大根などの収穫
蕎麦畑跡地チップ・厩肥散布 果樹に施肥
蕎麦はさかけ用資材の片付け
第5地区蕎麦跡整備チップ散布・南法面の整理

<景観 Gr>

倉庫の整理
花生姜伐採、山野草園整備
水生生物調査、池の整備



12月11日

<里山 Gr>

「ならやま里山林」の整備と資源活用
コナラ伐採（ガシガ被害木R2を中心に）
薪材（40cm）の玉切り、薪割り

コナラ・クヌギの試験植樹



<工房 Gr>

里芋・大根などの収穫・芋煮会
第5地区チップの散布・第5地区南法面整備

<景観 Gr>

彩の森と第5地区の草刈り
アヤメ刈り取り、春花施肥・池の整備

12月18日

<里山 Gr>

「ならやま里山林」の整備と資源活用
コナラ伐採（椎茸櫓木用）

薪材（40cm）の玉切り、薪割り

<工房 Gr>

里芋・大根などの収穫・堆肥づくり
菊畑周辺の草刈など 第5地区南法面整備

<景観 Gr>

ベースキャンプ周辺の草刈り
カンナ植え付け、冬囲い、寒肥
水生生物調査、池の整備



12月25日

<里山 Gr>

年末の整理作業
道具類の整備、倉庫の整理整頓・門松作り

<工房 Gr>

里芋・大根などの収穫 葉ボタン頒布
第5地区資材などの点検整備・片付け

<景観 Gr>

ベースキャンプ周辺の塵拾い（全員）
池の整備 迎春準備





行事案内 part 1

12 月例研

◆紅葉の「源氏の里 宇治」を歩く◆

宇治市は、「平等院」であまりに有名ですが、宇治橋から宇治川周辺は、源氏の里と云われるだけに風情のある所です。「平等院」は、長らく行われていた修復復元工事が今年完成し、4 月より公開開始、この 10 月 1 日に「鳳凰堂」が落成しました。京都府でも有名な紅葉は、今年も 11 月末頃が見ごろで、12 月上旬まで楽しめるそうです。

(11/17 宇治市観光協会)

J R 宇治駅を起点に、宇治川周辺の名所と“いろはかえで”の群生地「もみじ谷」を巡ります。帰りは J R 宇治駅から J R 奈良駅へ出て、忘年会会場「奈良ロイヤルホテル」へ向かいます。駅前でホテルの専用シャトルバスが待っていてくれます。

今年最後の例研、忘年会と併せ多くの方のご参加をお待ちしています。



1.日 程； 12 月 8 日(月)

2.集 合； 近鉄京都線 大久保駅前 9：10

3.ルート； J R 宇治駅前一宇治上神社一興聖寺一もみじ谷一白山神社一平等院一 J R 宇治駅

4.交 通；

①近鉄西大寺発 8：37—近鉄京都線急行—8：59 近鉄大久保着 駅前より京阪バス 9：21 発、9：32 J R 宇治駅到着（京阪宇治行—城南荘経由—21 系統 ④乗場）

② J R 奈良発 8：46—関西本線区間快速京都行—9：24 J R 宇治駅（9：35 頃に改札口迎え）

(復) J R 宇治 15：23 発普通—16：04 着 J R 奈良

5.担 当； 山中 寺田

(寺田 孝)

歴史 12 月研修会のご案内

一年を締括る 12 月の研修会は、地元佐保路の歴史の深掘りとしします。また、現在開催されている「大古事記特別展—五感で味わう、愛と創造の物語—」では、奈良の歴史の数々に五感で触れてみたいと思います。

午後の座学は、メンバーの皆様から蒞蓄の一部をご披露頂きます。併せて、当クラブの運営につきまして忌憚のないご意見を承りたいと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちいたします。

「実施要領」

①日時：12 月 13 日（土）9：30 集合

②場所：近鉄奈良駅 行基菩薩前

③携行品：弁当、飲み物

④スケジュール

《午前の部》

出発（9：30）⇒奈良県立美術館⇒

日輪山称名寺⇒常陸神社⇒佐紀神社⇒

不退寺（業平寺）⇒（解散・昼食）

《午後の部》

集合（13：00）（12 時から入場可）

場所：佐保川地域ふれあい会館

（座学のテーマと講師）

①仏の教え—中道・愛憎・智慧—

★川井秀夫さん

②法華寺の歴史

★鈴木末一さん

③謎の古代豪族 息長氏あれこれ

★岩本次郎さん

④フリートーキング

「歴史文化クラブの今後 など」

《連絡先》

歴史文化クラブ 事務局 古川祐司



行事案内 part 2



忘年会のご案内

今年も盛大に忘年会を開催いたします。
各活動のみなさんが一堂に会せる数少ない機会です。みなさまお誘いあわせの上、是非ともご出席ください。お待ちしております。

1. 日 時：12月8日(月) 17:00～20:00
2. 場 所：奈良ロイヤルホテル
奈良市法華寺町 254-1 (0742-34-1131)
3. 会 費：4,000 円
4. 申 込：12月2日(火)までをお願いします。
青木幸子 (080-1412-1131)
塩本勝也 (080-5035-0518)
5. 交 通：JR 奈良駅、近鉄奈良駅よりホテル
専用のシャトルバスをご利用ください。
・近鉄奈良駅(関西アーバン銀行前) 16:10 発
・ならまち元興寺(北口 石碑前) 16:20 発
・JR 奈良駅(東出口一般車両乗降場) 16:30 発
お待ちしております。



※アクセスマップを
同封しています。

仲間入りしました

この度有元様の紹介で、会に参加させていただくことになりました豊田正人と申します。

まだ週に3日仕事をしておりますので、皆様のように十分に活動に参加できませんが、木曜日が休みの日は参加させていただくことを楽しみにしております。学ぶことばかりで十分に覚えていけるか不安もありますが、自分自身にしっかりと言いつけて前を向いて頑張ろうと考えております。宜しくお願い致します。

ならやま名物・芋煮会&風呂吹き大根の案内

日 時：12月11日(木) 正午～

会 費：無料(アルコール類なし)

場 所：ならやまベースキャンプ

持ち物：お椀・コップ・箸など



今年も感謝祭として芋煮会を盛大に行います。

ならやまで収穫

した無農薬野菜

(里芋・大根・人

参・牛蒡・椎茸)

を使った芋煮と、

佐保台小学校5年

生と会員の皆さん

が丹精込めて作った黒米入りのおにぎりを味わって下さい。また特別に、エコファームGが春から秋にかけて心を込めて管理した里芋を賞味いただき、またじっくり炊き上げられた風呂吹き大根を味わってください。

会員の皆さんの参加お待ちしております。

問合せ： エコファームG 富井忠雄



ならやまの迎春準備

日 時：12月25日(木)

場 所：ならやまベースキャンプ

午前中

25日は、今年最後の活動日です。

1年の締めくくりとして、片付けと、新年に向かったの準備をお願いします。



行事案内 part 3



◆新春講演会のお知らせ◆

例年1月に実施している今年度の「新春講演会」は、京都大学名誉教授の田中 克先生をお迎えします。

田中先生は、森林や河川、沿岸、海洋などの生態系が、人間の活動や開発によって劣化し、汚染されてきている大きな原因が、これら“生態系のつながり”がなくなっているからと考えられ、その“つながり”を科学的に明らかにして、“つながり”を取り戻し、人と自然の係わりを考え直す新しい学問として「森里海連環学」を提唱されてきました。

その実践として「有明海再生プロジェクト」、東北沖大地震で大きな被害を受けた「気仙沼を復興させるプロジェクト」などにたずさわっております。

「森と里と海のつながり」というスケールの大きな視点で環境問題を考えておられます。

私たちの日々の活動にも、色な意味で唆に富む



お話がお聞きできるものと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

—新春講演会概要—

◇実施日；平成27年1月24日(土) 14:00～

◇演題；「森と里と海のつながり」

一人と自然を紡ぎ持続可能社会を見据えるー

◇会場；奈良市 中部公民館(予定)

◇講師 田中 克先生 プロフィール

- ・1943年 大津市生まれ
- ・京都大学農学部水産学科教授、稚魚・魚類学を研究 農学博士
- ・2003年 京都大学フィールド科学教育センター 初代所長就任 「森里海連環学」という新たな統合学問領域を提唱し、大学内の縦割りではなく、さまざまな学科の連携・統合を研究に生かす手法を求めた。(寺田 孝)

歴史文化クラブ1月研修会(予告)

「環濠の街・今井町とその周辺を歩く」

江戸時代の面影を残す奇跡のまち「今井町」を訪ねます。また、新春に因んで「大和七福八宝めぐり」の一つに数えられる「おふさ観音」にお詣りした後、蘇我氏ゆかりの宗我坐宗我都比古神社や入鹿神社にも足を延ばしてみたいと思います。

①開催日：平成27年1月12日(月)

②集合：近鉄・大和八木駅 9時20分

③コース：近鉄八木駅⇒札の辻⇒おふさ観音⇒華薨(今井まちなみ交流センター)⇒今井町重要伝統的建造物群保存地区⇒入鹿神社⇒宗我坐宗我都比古神社⇒真菅駅⇒八木駅(解散)

④担当：川井、弓場、中井

⑤連絡先：歴史文化クラブ 事務局 古川)



華薨



宗我坐宗我都比古神社

仲間入りしました

こんにちは、井上文男です。

永井幸次さんの紹介で10月23日に半日体験を、そして30日に入会させて頂きました。

私は40年以上にわたって自営業に携わって来ましたが、今年3月に卒業しました。

今までは仕事一筋に難しい人間関係の中で働いて来ましたので、これからはのんびりと自然に親しむ機会を持ちたいとの思いから参加させて頂きました。しかし、慣れない作業で足腰が痛く、この先続けて行けるのかと心配しております。

多くの方と知り合いになり、楽しく参加できるよう努力しますのでご指導の程宜しくお願い致します。

行事案内 part 4

新春初出式

＜ 白米・黒米2色お餅と七草粥 ＞

日 時：1月8日（木）

午前9時～新年挨拶

10時～餅つき

正午～新春初出式など

竹製の超ミニ猪口で型通りの乾杯をします。

白米・黒米の2色のお餅を杵と臼で搗きます。

きな粉を塗したお餅を賞味ください。

また、春の七草で有名な七草粥も振る舞っていただきます。お節料理で疲れ気味の胃腸に活力を取り戻しましょう。



【問】写真の狛犬は、母子の情愛に満ちたもので、奈良市内の



△母子狛犬 ▽子

神社にあります。

神社の名称を漢字2文字でお答えください。

◆応募方法
メール(広報)
又は FAX

◆締切
12月1日

◆11月号

【答】

正了知大將
立像(秘仏)



新年度月例研修会年間企画について

—希望行先等を募集しています！—

毎月実施している「月例研修会」の年間企画につきましては、毎年11月、12月に原案を策定して、3月の幹事会で最終決定しています。

年間企画原案は、月毎の直接担当幹事とは別に決められている統括幹事を中心に策定しています。今年度は、統括幹事の寺田、羽尻、山中、山本(妙)の4名と副会長の八木さん、事務局の青木さんに加わっていただき合計6名で策定しています。

現在月例研修会は、内容が偏らないように、3年前に実施したアンケート結果を基にテーマを決めて年間12回実施しています。

①自然観察会(樹木、花、野草など) 2回—レクチャー付き植物観察、自然遊びなど「自然教室チーム」の方々にお世話になっています。②春・秋ハイキング 2回—好季節のハイキングで、懇親的な性格も持つ企画です。③ウォーキング(含む軽登山) 2回—街道歩きなど健康志向の企画です。④歴史文化探訪 2回—歴史・文化クラブ研修会とは別に、会員に広く参加していただくために月例研修会として「歴史・文化クラブ」の方々にお世話になっています。⑤冬鳥探鳥会 1回—伝統的に昔から人気のある企画です。⑥夏季、一泊研修会 各1回—様々な分野の会員の知識研鑽を基本としたものです。⑦新春講演会 1回—これも会員の知識研鑽を深めるために、毎年1月に実施しています。

★これらテーマを参考にいただき、「ここに行ってみたい」「このテーマを取り上げて研鑽の場にしてほしい」など、皆さまのご要望・ご意見を広く募集しています。12月20日頃までに統括主担当の寺田までご連絡ください。

★ 連絡先 寺田 孝

平成 26 年・11 月度幹事会報告

- ◆日 時:平成 26 年 11 月 5 日(火) 13:30~16:10
- ◆場 所:奈良市はぐくみセンター
- ◆案 件:

I 会長挨拶

- ・三井物産環境基金(上期分)報告した。11/5 アサヒビール基金報告会で 25 年度事業を発表する。
- ・12/13 奈良県環境教育ミーティング、1/10 森林環境シンポジウムで活動報告をする。

II 報告事項

- ①会員動向:前月より 2 人増えて 152 名
- ②会計報告:
 - ・予算執行状況は、概ね順調に推移している。
 - ・27 年度予算、事業計画を 1/20 までに事務局へ提出し、2 月幹事会から検討していく。
- ③月例研修会、自然教室、イベント等の活動報告:
 - ・芋ほり、生駒市「花と緑の楽校」の実習、芦生の森一泊研修の活動報告がなされた。
 - ・まごころプロジェクトの関連で、気仙沼市の鹿折小学校の子供達に鹿の折り紙を送った。

III 検討事項

- ①ならやま:10 月実績報告、11 月度活動予定
 - ・10 月度は好天に恵まれ活動が活発に行われ、参加者も順調であった。
 - ・11 月 21 日に草刈機の安全講習会を実施する
- ②11/27 新そば祭り:要領が説明され実施を決定。
- ③12/11 ならやま芋煮会:内容が提案され決定。
- ④林野庁交付金事業の進捗状況について:
 - ・里山林地区から第 5 地区の整備がメインとる。
 - ・第 3 四半期交付金の請求はしないことにした。
- ⑤ネイチャーなら 12 月号の編集について:
 - 20 ページ立てで、執筆担当が決められた。
- ⑥忘年会:12/8 の月例研修会に引き続いて、奈良ロイヤルホテルで開催することになった。
- ⑦GG プロジェクト:第 1 回イベントは 2/28 に「しいたけ菌打ち+バウムクーヘン」でスタートする。

IV 確認事項

- ①1/24 新春講演会は中部公民館で実施する。チラシを作成、配布し一般の方の参加も認める。
- ②11~1 月の行事予定の確認をした。

以上

◇ 申し合わせ ◇

- ※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後 7 時前の NHK TV 天気予報で奈良県北部の降水確率が午前 60% 以上の場合は、中止になります。
- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。

ペン画に寄せて

境 寛

ユズリハ

私のペン画の同好会の名前が「ユズリハの会」といい、その名前の由来となった植物です。

雌雄異株で、5 月から 6 月に花が咲く。果実は 10 月から 11 月に熟し、黒褐色になる。ユズリハの名は、春枝先に出た若葉と、前年の葉がそれに譲るように落葉することから。その様を、家が代々続いていくように見立てて縁起物として、正月の飾りや庭木として植えられる。



岩国哲人氏の新聞少年時代のエッセイを読んだ。字を余り読めないおばあさんが、少年のために購読を続けた話である。その真相を知った時、少年の眼には涙が溢れでて止まらなかったという。幼き頃のこの体験が、人間としての生き方のバックボーンとなっている。昭和時代の話として・・・ではないと思う。(里山人)

会報誌[ネイチャーなら]・第155号

発行:奈良・人と自然の会

会長 藤 田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表:鈴木末一